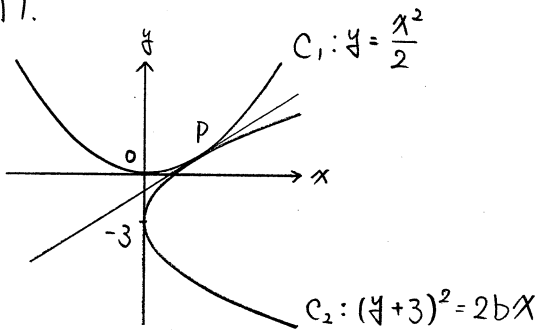


1

問1.



C_1 は $y \geq 0$ の範囲にあるので、 C_1, C_2 の
 共有点は、 $x > 0, y > 0$ の範囲にある。
 よって、 P は C_2 の $y+3 = \sqrt{2bx}$ ($x > 0$)
 上にあり、

$$\begin{cases} y = \frac{x^2}{2} \text{ に対して, } \frac{dy}{dx} = x, \\ y = \sqrt{2bx} - 3 \text{ ($x > 0$) に対して, } \frac{dy}{dx} = \sqrt{\frac{b}{2x}} \end{cases}$$

より、 P の x 座標を t (> 0) とおくと

$$\begin{cases} \frac{t^2}{2} = \sqrt{2bt} - 3 & \dots \text{ ①} \\ t = \sqrt{\frac{b}{2t}} & \dots \text{ ②} \end{cases}$$

②より、 $b = 2t^3$ であり、

これと①より

$$\frac{t^2}{2} = 2t^2 - 3$$

$$t^2 = 2.$$

$t > 0$ より、 $t = \sqrt{2}$ であり $P(\sqrt{2}, 1)$ 。

よって、求める接線の方程式と b の値は

$$y = \sqrt{2}x - 1 \quad \dots \text{ (答)}$$

$$b = 4\sqrt{2} \quad \dots \text{ (答)}$$

問2.

C_2 の傾き正の接線は C_2 の

$$y+1 = \sqrt{2bx} \quad (x > 0) \quad \dots \text{ ③}$$

の部分で C_2 と接する。

C_1 の点 $(s, \frac{s^2}{2})$ における接線の方程式は、

$$y = sx - \frac{s^2}{2}. \quad \dots \text{ ④}$$

(傾き正より、 $s > 0$)

③の点 $(t, \sqrt{2bt} - 1)$ における接線の方程式は、

$$y = \sqrt{\frac{b}{2t}}x + \sqrt{\frac{bt}{2}} - 1. \quad \dots \text{ ⑤}$$

④、⑤が一致するとき、

$$\begin{cases} s = \sqrt{\frac{b}{2t}}, & \dots \text{ ⑥} \\ -\frac{s^2}{2} = \sqrt{\frac{bt}{2}} - 1. & \dots \text{ ⑦} \end{cases}$$

⑥より、 $t = \frac{b}{2s^2}$ であり、

これと⑦より、

$$-\frac{s^2}{2} = \frac{b}{2s} - 1$$

$$b = -s^3 + 2s. \quad \dots \text{ ⑧}$$

以上より、⑧を満たす $s (> 0)$ が

少なくとも一つ存在するような $b (> 0)$

の値の範囲を求めればよい。

1

つき), Su 平面内において,
 直線: $u=b$ と, $u=-S^3+2S$ の
 グラフが $S>0$ の範囲に少なくとも
 1つの共有点をもつような $b(>0)$
 の値の範囲を求めればよい.

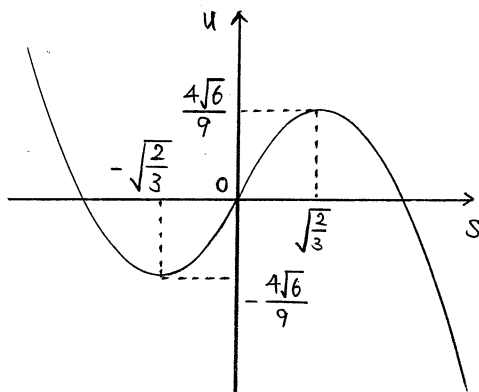
$u=-S^3+2S$ に対して,

$$\frac{du}{dS} = -3S^2 + 2$$

よ, u の増減は次の表のよう
 なる.

S	...	$-\sqrt{\frac{2}{3}}$...	$\sqrt{\frac{2}{3}}$...
$\frac{du}{dS}$	-	0	+	0	-
u		↘		↗	

よて, $u=-S^3+2S$ のグラフは,
 次のようになる.



これと, $b>0$ よ, 求める値の範囲は

$$0 < b \leq \frac{4\sqrt{6}}{9} \dots (\text{答})$$

2

$$f(x) = \int_0^x \frac{1}{\sqrt{1+t^3}} dt. \quad (x > 0)$$

問1. $0 \leq t \leq x$ ($x > 0$)において,

$$\frac{1}{\sqrt{1+t^3}} > 0$$

であるから $f(x) > 0$ であり, また

$$f'(x) = \frac{1}{\sqrt{1+x^3}} > 0$$

であるから, $x > 0$ において $f(x)$ は単調に増加する.

以上より, $0 < x_1 < x_2$ ならば,
 $0 < f(x_1) < f(x_2)$. (証明終り)

問2.

$y = g(x)$ ($g(x) > 0$) に代りして,

$$x = \int_0^y \frac{1}{\sqrt{1+t^3}} dt \quad \dots \textcircled{1}$$

である.

①の両辺を y で微分すると,

$$\frac{dx}{dy} = \frac{1}{\sqrt{1+y^3}}$$

$$\frac{dy}{dx} = \sqrt{1+y^3}$$

であるから,

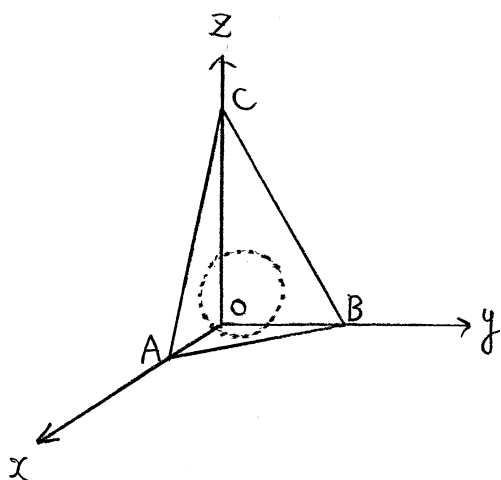
$$g'(x) = \sqrt{1+g(x)^3}. \quad \dots \text{(答)}$$

問3.

問2の結果より,

$$\begin{aligned} g''(x) &= \frac{3\{g(x)\}^2 \cdot g'(x)}{2\sqrt{1+\{g(x)\}^3}} \\ &= \frac{3\{g(x)\}^2 \sqrt{1+\{g(x)\}^3}}{2\sqrt{1+\{g(x)\}^3}} \\ &= \frac{3}{2}\{g(x)\}^2. \quad \dots \text{(答)} \end{aligned}$$

3



問1

Sの半径をrとする.

Pは $x > 0$ かつ $y > 0$ かつ $z > 0$ の範囲にあり, x y 平面, y z 平面, z x 平面との距離が「いずれも」rであるから, Pの座標は (r, r, r) である.

さらに, 4つの四面体

$POAB, POBC, POCA, PABC$

の体積の和は四面体 $OABC$ の体積であるから,

$$\frac{1}{3} (\Delta OAB + \Delta OBC + \Delta OCA + \Delta ABC) r = \frac{1}{3} \Delta OAB \cdot OC \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\Delta OAB = \frac{1}{2} (\sqrt{3}-1) \cdot 2 = \sqrt{3}-1,$$

$$\Delta OBC = \frac{1}{2} \cdot 2(\sqrt{3}+1) = \sqrt{3}+1,$$

$$\Delta OCA = \frac{1}{2} (\sqrt{3}+1)(\sqrt{3}-1) = 1$$

であり,

$$\vec{BA} = (\sqrt{3}-1, -2, 0), \vec{BC} = (0, -2, \sqrt{3}+1) \text{ より}$$

$$\begin{aligned} \Delta ABC &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{BA}|^2 |\vec{BC}|^2 - (\vec{BA} \cdot \vec{BC})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(8-2\sqrt{3})(8+2\sqrt{3}) - 4^2} \\ &= 3. \end{aligned}$$

であるから, ①より

$$\frac{1}{3} (2\sqrt{3}+4)r = \frac{2}{3}.$$

よって $r = 2-\sqrt{3}$ であり, Pの座標は

$$(2-\sqrt{3}, 2-\sqrt{3}, 2-\sqrt{3}). \quad \dots \text{(答)}$$

問2

$PQ \perp$ (平面 ABC) より,

$$\vec{PQ} \cdot \vec{BA} = \vec{PQ} \cdot \vec{BC} = 0$$

であり, ②より $k \in \text{実数}$ とし

$$\vec{PQ} = k(\sqrt{3}+1, 1, \sqrt{3}-1). \quad \dots \textcircled{2}$$

Qは平面 ABC 上にあり, $s, t \in \text{実数}$ とし

$$\vec{OQ} = (1-s-t)\vec{OB} + s\vec{OA} + t\vec{OC}. \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{2} \text{より } \vec{OQ} = \vec{OP} + k(\sqrt{3}+1, 1, \sqrt{3}-1)$$

であり, ③と成分を比較すると

$$\begin{cases} s(\sqrt{3}-1) = 2-\sqrt{3} + k(\sqrt{3}+1), \\ (1-s-t) \cdot 2 = 2-\sqrt{3} + k \\ t(\sqrt{3}+1) = 2-\sqrt{3} + k(\sqrt{3}-1). \end{cases}$$

②より

$$k = \frac{2-\sqrt{3}}{3}, s = \frac{3\sqrt{3}-1}{6}, t = \frac{\sqrt{3}-1}{6}$$

よって, Qの座標は

$$\left(\frac{5-2\sqrt{3}}{3}, \frac{8-4\sqrt{3}}{3}, \frac{1}{3} \right). \quad \dots \text{(答)}$$

4

問1. $x \geq 0$ のとき $x^{p-1} \geq 0$ であるから
求める面積は

$$\int_0^s x^{p-1} dx = \left[\frac{1}{p} x^p \right]_0^s = \frac{s^p}{p} \dots (\text{答})$$

問2. $0^{p-1} = 0$ であり、 $x > 0$ のとき
 $(x^{p-1})' = (p-1)x^{p-2} > 0$

であるから、 $0 \leq y \leq t$ を満たす y に対し

$$y = x^{p-1}$$

を満たす実数 x はただ一つ存在し、 0 以上である。 $t = x^{p-1}$ を満たす実数 x は正であり、それを u とすると求める面積は、

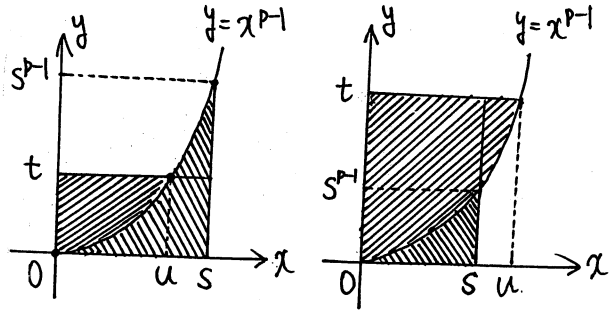
$$\begin{aligned} \int_0^t x dy &= \int_0^u x \cdot \frac{dy}{dx} dx \\ &= \int_0^u (p-1)x^{p-1} dx \\ &= \left[\frac{p-1}{p} x^p \right]_0^u \\ &= (1 - \frac{1}{p}) u^p \\ &= (1 - \frac{1}{p})(u^{p-1})^{\frac{1}{1-\frac{1}{p}}} \\ &= \frac{t^{\frac{p}{p-1}}}{\frac{p}{p-1}} \dots (\text{答}) \end{aligned}$$

(注意) $p-1$ が偶数のときは $y = x^{p-1}$ のグラフは y 軸に関して対称であるが、本問においては $y = x^{p-1}$ のグラフは $x \geq 0$ においてのみ定義されていると解釈した。

問3 $st = 0$ のとき、

$$0 \leq \frac{s^p}{p} + \frac{t^{\frac{p}{p-1}}}{\frac{p}{p-1}}$$

より、成り立つ。 $s > 0, t > 0$ のとき、



$t \leq s^{p-1}$ のとき $s^{p-1} \leq t$ のとき

問1, 問2 の面積の合計と $(0,0), (s,0), (s,t), (0,t)$ を4頂点とする長方形の面積と比較して

$$st \leq \frac{s^p}{p} + \frac{t^{\frac{p}{p-1}}}{\frac{p}{p-1}}$$

(証明終り)

問4. $a \leq x \leq b$ において $|f(x)| \geq 0, |g(x)| \geq 0$ であるから 問3 より、

$$\begin{aligned} |f(x)g(x)| &= |f(x)||g(x)| \\ &\leq \frac{1}{p} |f(x)|^p + \frac{1}{\frac{p}{p-1}} |g(x)|^{\frac{p}{p-1}} \end{aligned}$$

が成り立つ。よって

$$\begin{aligned} \int_a^b |f(x)g(x)| dx &\leq \int_a^b \left(\frac{1}{p} |f(x)|^p + \frac{1}{\frac{p}{p-1}} |g(x)|^{\frac{p}{p-1}} \right) dx \\ &= \frac{1}{p} \int_a^b |f(x)|^p dx + \frac{1}{\frac{p}{p-1}} \int_a^b |g(x)|^{\frac{p}{p-1}} dx \\ &= \frac{1}{p} + \frac{1}{\frac{p}{p-1}} \\ &= 1 \end{aligned}$$

(証明終り)

5

a, b, c, x, y, z は実数.

問1

$a^2 - b^2 > 0$ のとき, $a^2 > b^2 \geq 0$ より $a \neq 0$.

$f(t) = (at+x)^2 - (bt+y)^2$ とおく.

$$f(t) = (a^2 - b^2)t^2 + 2(ax - by)t + (x^2 - y^2)$$

より, 2次関数 $s = f(t)$ のグラフは, 下に凸の放物線であり,

$$f\left(-\frac{x}{a}\right) = -\left(-\frac{bx}{a} + y\right)^2 \leq 0$$

より, t 軸と共有点をもつ. したがって, 2次方程式 $f(t) = 0$ は実数解をもつ.

(証明終り)

問2

問1より, $f(t) = 0$ が実数解をもつから,

$$\frac{(\text{判別式})}{4} \geq 0.$$

$$(ax - by)^2 - (a^2 - b^2)(x^2 - y^2) \geq 0.$$

よって,

$$(ax - by)^2 \geq (a^2 - b^2)(x^2 - y^2).$$

(証明終り)

問3

$a^2 - b^2 - c^2 > 0$ のとき, $a^2 > b^2 + c^2 \geq 0$ より $a \neq 0$

$g(t) = (at+x)^2 - (bt+y)^2 - (ct+z)^2$ とおく.

$$g(t) = (a^2 - b^2 - c^2)t^2 + 2(ax - by - cz)t + (x^2 - y^2 - z^2)$$

より, 2次関数 $s = g(t)$ のグラフは, 下に凸の放物線であり,

$$g\left(-\frac{x}{a}\right) = -\left(-\frac{bx}{a} + y\right)^2 - \left(-\frac{cx}{a} + z\right)^2 \leq 0$$

より, t 軸と共有点をもつ.

したがって, 2次方程式 $g(t) = 0$ は実数解をもつから

$$\frac{(\text{判別式})}{4} \geq 0.$$

$$(ax - by - cz)^2 - (a^2 - b^2 - c^2)(x^2 - y^2 - z^2) \geq 0.$$

よって,

$$(ax - by - cz)^2 \geq (a^2 - b^2 - c^2)(x^2 - y^2 - z^2).$$

(証明終り)